

対話型 Blog システム

ネタ提供とメーリングリスト融合による Blog の活性化

1. 背景

近年、誰でも簡単にインターネット上で情報発信可能な Blog が広まっている。日本ではすでに開設者335万人、閲覧者1651万人に達しており、2007年には開設者782万人に達すると予想されている。Blog とは、Web と log を組み合わせた造語であり、Web 上に作成された個人のホームページのようなものであり、ある話題に関して自分の考えなどコメントをつけて情報発信する場である。

Blog の特徴として、著者と読者をつなぐ手段があることがあげられる。これはトラックバックと呼ばれ、著者が書いた記事がどこでどのように引用されているかを知ることが可能となる。これにより、著者は自己満足や次への更新意欲を得ることが可能となる。

しかしながら、個人的な経験から Blog において、多くの人からコメントをもらうことは非常に困難であることがいえる。そのため、申請者をはじめとして、Blog 開設者の多くが継続的な更新の難しさに直面している。大手 Blog サイトでは個人的な Blog が有名な Blog に埋没してしまい、大半の人は読まれていないというのが現状である。大手 Blog では、次のような入り口が設けられている。1) 時系列: 新着 Blog、2) 人気度: Blog ランキング、3) 知名度: 有名人 Blog、4) キーワード: Blog 検索、5) カテゴリ、テーマ。これらの中で、有名人でもないし、ランキングにでない素人の Blog が閲覧される可能性について考えると、カテゴリを掘ってもらうか検索か新着となる。中でも最も期待できるものは、誰もが平等に登場することができる新着と考えられるが、新着は 100 件/3 分(参考: goo blog)という早さで更新されており、トップ 15 件に表示される時間は 30 秒以下となる。以上のことから、素人の Blog が多くの人に読まれる可能性は非常に低いということがわかる。

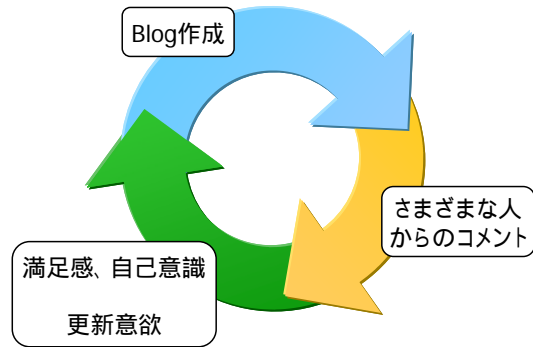


図1 Blog 更新のための輪



図2 Blog の入り口

2. 目的

そこで、本プロジェクトは、ネタを配信することで Blog 更新を促進すると同時に、素人でも Blog に書いた記事を広く読んでもらえる仕組みを提供することで、さらに Blog 更新を促進するが目的である。

3. 開発の内容

(開発したソフトウェアの動作環境、構成、機能等を図等を使用して記述)

本提案では、ニュースなどのトピックを元に「ネタ」を生成し、個人の興味に応じて、Blog 側からネタを配布する。ユーザはそれに返事することにより、継続的な更新が可能となる。また、Blog とメーリングリストを融合し、同じネタに返事した人が、開設者 = 閲覧者となるような仕組みとすることで、個人的な Blog の活性化を図る。提案システムによりメル友とコミュニケーションする感覚で楽しく Blog 更新ができるのではないかと期待している。また、複数のユーザに同一の質問することにより、Blog を使ったアンケート的な利用もできるのではないかと考えられる。

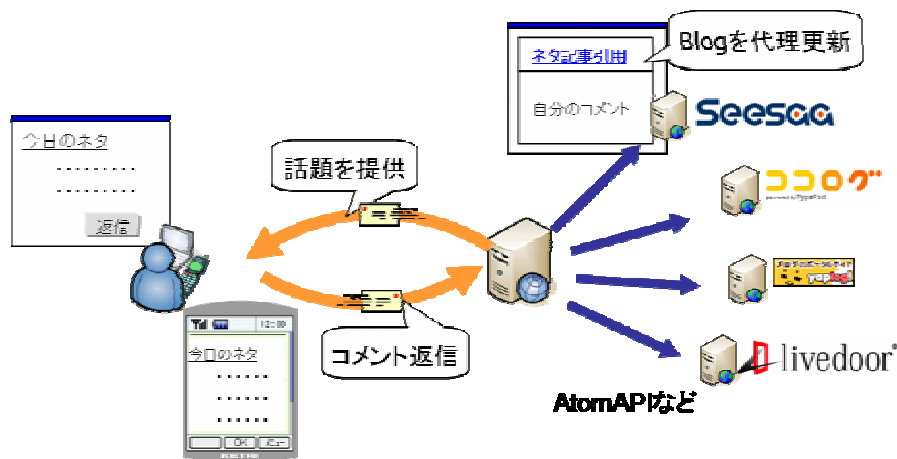


図3 ネタ提供と Blog の代理更新

上図に示すように、本システムは、一般的な Blog システムとユーザの間に介在する形になる。ユーザは、あらかじめ自身の Blog 情報、興味や嗜好を登録しておく。そして、サーバはユーザに対してネタをメールにより配信する。ユーザがメールに対して返事を書くと、サーバはあらかじめ登録されたそのユーザの Blog を代理更新する。

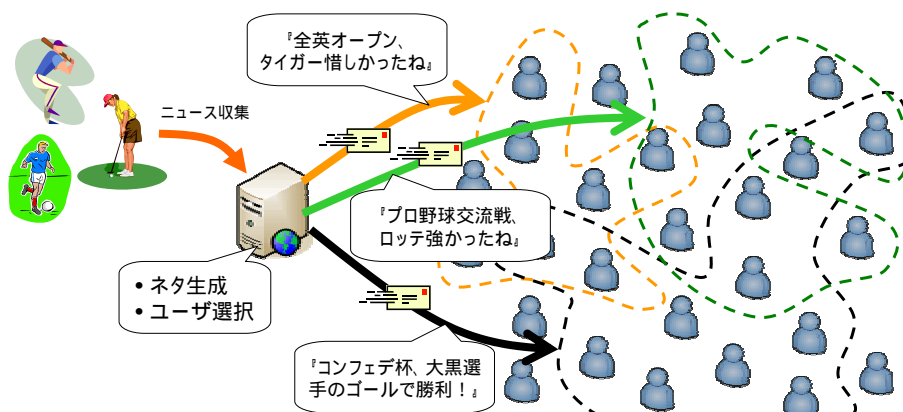


図4 ネタ収集とユーザの嗜好に基づく配信

サーバは、インターネットのニュースサイトを巡回し、ネタを収集する。そして、ユーザの興味や嗜好を考慮して、同じネタを複数人に配信する。このとき、動的にメーリングリストを作成し、メーリングリストを用いてネタを配信する。その結果、ユーザ A の返信は、同じネタが配信されたすべてのユーザに対して届くことになる。もちろん、ユーザ A の返信に対して、ユーザ B が返信することも可能であり、それにより新しいコミュニケーションを生み出すことが可能となる。

4. 従来の技術(または機能)との相違

(開発したソフトウェアの新規性、類似のソフトウェアと比較した場合の優位性等を記述)

これまで、Web上でネタを提供し、それに対してトラックバックを促すというサービスは、各種 Blog で提供されていた。しかしながら、今回のようにメールで Push 配信し、かつそれがメーリングリストになっているものは全く新しいと思われる。メーリングリストの利点として、1人の声が全員に届く点がある。そのため、それを Blog に適用することは、Blog において自分の声を遠くまで届かせる手段としては有効であると考えられる。(しかしながら、不要なメールが大量に到着する可能性も否めない。そのため、一概に優位点ということが出来ないかもしれない。)

5. 期待される効果

(開発されたソフトウェアにより、波及的に活性化される技術分野・産業分野等の範囲やその効果を可能な限り具体的、定量的に記載)

本ソフトウェアにより、Blog における一つの機能として、ニュース配信とメーリングリスト融合などが一般的になる可能性がある。それにより、ますます Blog、特に初心者の Blog 更新頻度の向上につながることが期待できる。

6. 普及(または活用)の見通し

(開発成果に関する利用者の具体的なイメージ[例えば、利用者数など]を可能な限り定量的に記載)

ニュースと連動した Blog 更新は、この1月あたりから複数の Blog において提供が開始され始めてしまった。本システムは、あくまで Blog とユーザの間に介在するシステムであるため、Blog 側で同様の機能を提供された場合は出番がなくなる。そういう観点からすると、大手 Blog サイトで一つの機能として採用してもらうことが、普及への近道であると考えられる。

7. 開発者名(所属)

(* 太郎(情報処理推進機構 戦略企画部))

荒川豊(慶應義塾大学 大学院理工学研究科 開放環境科学専攻 山中研究室)

清水翔(慶應義塾大学 大学院理工学研究科 開放環境科学専攻 山中研究室)

立野雅紘(慶應義塾大学 大学院理工学研究科 開放環境科学専攻 山中研究室)

(参考)開発者URL

[記載要領]: 開発者の方々に問題のない範囲で下記要領にしたがって記載下さい。

書式: A4(縦置き)で3~4枚程度、フォント(12ポイント、ゴシック)、

余白(上下左右とも25mm)、文字数等(37文字、38行)、

ページ数(1/1、1/2...とし、センタリング設定)。

ただし、テーマ名及びサブタイトルのみ14ポイント、センタリング設定。

テーマ名: 契約名を記載。

サブタイトル: 20字以内で記載(成果のイメージをつかんでもらうためのもの)。

1. ~ 6. までは提案書等をベースに記載。

7. 開発者名: 開発者名に加え、()書きで問合せ先となる所属等を記載。

なお、開発パートナー(会社)についても全て記載。

成果物を紹介する、または成果物に関連するURLがある場合には、URLを記載。

図表: 原則、図表は本文で引用した箇所に近い場所に添付(原稿末尾にまとめて添付することは避けてください)。

図表の前後には、空白行を1行設け、「表」のキャプションは表の上に、「図」のキャプションは図の下に記載。図番号・表番号はそれぞれの通し番号として記載。

ファイル名: 「契約番号(詳細)」をファイル名として保存。ex: 2004 情財第 100 号(詳細)

* 参考: 平成 15 年度成果報告集 <http://www.ipa.go.jp/about/jigyoseika/index.html>